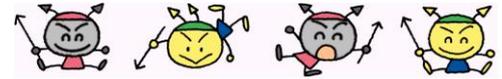




## 感染症と登園（所）基準

### 1. 感染症とは？



感染症とは、細菌やウイルスなどの病原体が、生物に寄生して引き起こす病気です。咳やくしゃみ、鼻水などの症状が出るかぜや、熱が出るインフルエンザ、病原体で汚染されたものを食べて吐き気や下痢などの症状が出る食中毒も感染症の一種です。

感染症を引き起こす病原体には、主にウイルス、細菌、真菌（かび）、マイコプラズマ、クラミジアなどがあり、種類によって治療方法も違います。

### 2. 年齢別にみた感染症



乳幼児期の代表的な感染症にRSウイルス感染症があります。

寒い時期に流行しやすく春先まで流行が続きます。1歳までに50%、2歳までにほぼ100%の子どもがかかりますが、免疫は一生続かず、半数以上の子どもが毎年かかります。

潜伏期は4～5日で、接触または飛沫感染によります。

感染した子どもの30～40%は気管支炎や細気管支炎になり、初めて感染したときに重症化することが多く、入院することもまれではありません。特に低出生体重児や生まれつき心臓に病気のある子どもは重症化しやすく、予防薬を使う場合があります。

一般的に乳幼児は細菌感染症にかかりやすく、急性中耳炎や化膿性扁桃腺炎はその代表です。

6歳以降になると、ウイルスやクラミジア、マイコプラズマといった細菌以外の病原体による感染症にかかる場合が増えてきます。

学童期以降になると、呼吸器・消化器の感染症の多くはウイルスによるものとなり、抗菌薬では治療できない場合が多くなります。

### 3. ワクチンによる予防



乳幼児期にかかりやすい感染症には、ワクチンで予防できるものがあります。ワクチンで予防できる感染症には治療が難しい病気や重大な病気が多く、感染すると命に関わったり、重い合併症や後遺症が残る可能性があります。これらの危険から子どもを守るためにも、しっかりとワクチンを接種しておくことが大切です。



4. 「呉市保育所（園）・幼稚園における感染症の対応マニュアル」における  
《 登園（所）許可書が必要なおもな感染症 》



病 名	登（所）基準
インフルエンザ	発症後5日経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで （抗ウイルス剤を使用した場合も同様に扱う）
ひやくにちぜき 百日咳	特有の咳が消失、または5日間の抗生物質製剤による治療終了まで 百日咳の診断は臨床診断でも可
ましん 麻疹（はしか）	解熱した後3日を経過するまで
りゅうこうせいじかせんえん 流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
ふうしん 風疹（三日はしか）	発疹が消失するまで
すいとう 水痘（みずぼうそう） たいじょうほうしん 帯状疱疹	すべての発疹が、かさぶたになるまで
いんとうけつまくねつ 咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状が消退した後2日を経過するまで
ようれんきんかんせんしょう 溶連菌感染症	抗生剤治療開始後 24 時間を経て全身状態が良好となるまで
ヘルパンギーナ	急性期の症状（発熱）が消退するまで
ちょうかんしゅつけつせいだいちょうきんかんせんしょう 腸管出血性大腸菌感染症	ベロ毒素産生菌の場合は、菌が消失してから ベロ毒素を産生しない場合は、急性期症状（下痢・発熱・嘔吐）が消退してから
りゅうこうせいおうとげりしょう 流行性嘔吐下痢症	嘔吐・発熱・下痢の症状が消退するまで
りゅうこうせいかくけつまくえん 流行性角結膜炎	結膜充血・眼脂（めやに）などの症状が消退するまで
いけいはいえん 異型肺炎 （マイコプラズマ肺炎）	感染力の強い急性期が終わり症状改善し、全身状態が良好となるまで
アデノウイルス感染症	おもな症状（発熱など）が消え2日経過するまで

\* 症状により、園医・嘱託医その他の医師において感染の恐れがないと認められたときは、この限りではありません。

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>

